

辺野古通信

第52号 2016年6月30日



6/19 沖縄県民大会



6/19 神奈川行動

発行: 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)
沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

元海兵隊員による女性殺害糾弾！全基地撤去を！

■元海兵隊員の男（嘉手納基地所属の軍属）による二十歳の女性暴行殺害事件は、沖縄の人々に大きな衝撃と波紋を広げつつある。安倍と会談した翁長知事は米兵と軍属の特権的地位を保証している日米地位協定の改定を求めたが、日米両政府はいつもの通りの小手先の「再発防止策」と地位協定の運用見直しでやり過ごそうとしている。しかし、基地と軍隊あるがゆえに繰り返される「悲劇」の元凶が沖縄の軍事植民地状況にあることを沖縄の人々は的確に見抜いている。女性の遺体発見直後に「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」共同代表の高里鈴代さんは「事件が起こり続ける加害責任は、加害者を上回って日米両政府にある」と鋭く指摘した(5/23 沖縄タイムス)。シュワブや嘉手納をはじめとした在沖米軍基地前では「全基地撤去」を掲げた激しい抗議行動が繰り返されている。5/26に「海兵隊撤退」を初めて掲げた県議会決議が全会一致(自民党議員は退席)で採択された。■6/5 投開票の沖縄県議選は、翁長知事与党が48議席中27議席を獲得し安定多数を占めた。県議選の勝利は、宮古島、石垣島の陸上自衛隊配備推進派の自民党分裂という形で波及しつつある。7/10の参議院選が注目だ。■6/17 国地方係争委員会は「国交省の是正指示の適否を判断せず、国と県の協議を促す」という審査結果を通知。和解条項が定めた6/28までに県は「是正指示」の取消訴訟を提起せず国に協議を求めた。■6/19、「被害者を追悼し海兵隊撤退を求める県民大会」が那覇市内で開催された。梅雨明け後の厳しい夏の日差しの下、65000人が詰めかけた。「世代を超えて女性の姿が目立った。彼女たちの多くが弔意を表す喪服を着用している。モノトーンの色調で埋め尽くされた会場に渦巻いていたのは、沖縄の「公憤」だ。復帰後、最も残虐な事件に対する強い怒り、被害者の痛みを想像することによって生まれる新たな痛みの感情、若い命を救うことができなかつた自責の念などが入り交じった思いである」(6/20 沖縄タイムス社説)。

■この県民大会と同日、同時刻に、東京・国会前(10000人超が結集)を中心に全国各地で沖縄に呼応して行動。神奈川でも約300人が横浜市内でアピール行動を展開した。県民大会で被害者と同世代の玉城愛さんは「安倍晋三さん。日本本土にお住まいのみなさん。今回の事件の『第二の加害者』はあなたたちです。しっかり沖縄に向き合っていただけませんか」と呼びかけた。この問いかけに正面から向き合うことから始めるしかない。

■辺野古・高江カンパは累計1,922,289円(6月30日現在)。引続きカンパを！
郵便 00210-0-2021 沖縄連続講座

辺野古新基地建設の断念を求める全国交流集会へ！

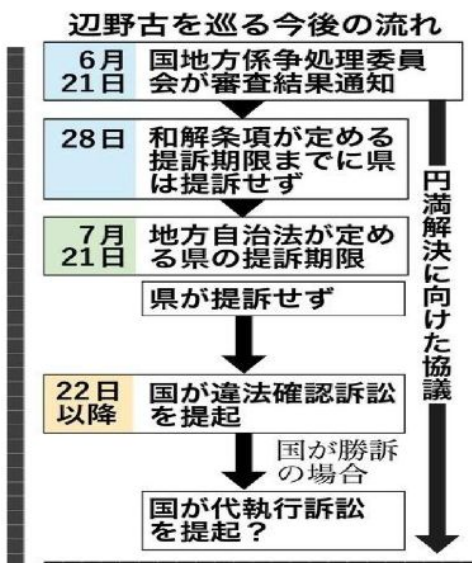
7月31日(日) 10-18時 連合会館・全電通会館

午前中は連合会館で分科会、午後は全電通会館で全体集会です。

■講演 山城博治さん(沖縄平和運動センター議長)、桜井国俊さん(沖縄大学名誉教授)、白藤博行さん(専修大学)、高野孟さん(ジャーナリスト)

■主催 止めよう！辺野古埋立て国会包囲実行委員会

「6. 17国地方係争処理委員会決定」を読む



（*左表は6月29日付琉球新報記事から）

翁長知事の埋立て承認取消し処分(2015/10/13)に対する国交省の「是正指示」の適否を審査していた国地方係争処理委員会が、6/17の第9回会合で審査結果をまとめ、国および沖縄県に通知した。決定内容の全文は6/21に公開された。結論部分は以下のとおり。

「国と沖縄県との間で議論を深めるための共通の、基盤づくりが不十分な現在の状態の下で」「肯定又は否定のいずれかの判断をしたとしても、それが国と地方のあるべき関係を両者間に構築することに資するとは考えられない。」「当委員会としては、本件是正の指示にまで立ち至った一連の過程は、国と地方のあるべき関係からみて望ましくないものであり、国と沖縄県は、普天間飛行場の返還という共通の目標の実現に向けて真摯に協議し、双方がそれぞれ納得できる結果を導き出す努力をすることが、問題解決に向けての最善の道であるとの見解に到達した。」「以上により、当委員会は、本件是正の指示が地方自治法第245条の7第1項の規定に適合するか否かについては判断せず、上記見解を持って同法250条の14第2項による委員会の審査の結論とする。」

要するに「国交省の是正指示の適否を判断せず、国と県の協議を求める」という結論。是正指示のお墨付きを得たかった国側の目論見は外れたが、地方自治の観点からは是正指示の不当性を断罪することを期待した県も裏切られた。重要なことは3/4に国と県が合意した和解条項の想定外の結論だったこと。和解条項5項6項は以下の通り定めている。

5 同委員会が是正の指示を違法でないと判断した場合に、被告に不服があれば、被告は、審査結果

の通知があった日から1週間以内に同法251条の5第1項1号所定の是正の指示の取消訴訟を提起する。
6 同委員会が是正の指示が違法であると判断した場合に、その勧告に定められた期間内に原告が勧告に応じた措置を取らないときは、被告は、その期間が経過した日から1週間以内に同法251条の5第1項4号所定の是正の指示の取消訴訟を提起する。

上記の通り、和解条項は、国地方係争処理委員会が是正の指示を「違法でない」と判断した場合（5項）「違法であると判断した場合」（6項）の二つしか想定していない。そしてどちらの場合も県が原告となり是正の指示の取消訴訟を1週間以内に提起することになっていた。和解の前提が崩れた結果、県は提訴の義務から解放された。県は6/24、係争委の決定に従い、提訴せぬ意向を伝達するとともに、国に協議を促す文書を送付した。このままでは翁長知事の埋立て承認取消処分が生きているため、国は工事を進めることはできない。逆に工事を進めるためには、違法確認訴訟及び代執行訴訟を、国が原告になって提起し、翁長知事の埋立て承認取消処分を取り消さなければならない。その場合、係争委と県から求められた協議を拒否して法的手段に再び訴える国の強権的な姿勢が改めて浮き彫りになるとともに、法廷闘争においても原告となった国が立証責任を負うことになる。いずれにしても、国地方係争委の「変化球」は県の実質勝訴であり、和解条項が想定したよりも、法的決着に時間がかかることになるという理解が一般的だ（註①）。菅官房長官や中谷防衛相が「県が1週間以内に取消訴訟を提起するものと承知している」と県を牽制しているが、国の焦りの裏返しだ。

振り返ってみれば、3/4の電撃的な和解は、ある意味では、強権的な代執行訴訟で形勢不利となった国に、福岡高裁那覇支部の多見谷裁判長が助け舟を出したものであり、安倍官邸は「工事中止」という大きな代償を払いながらも、早期に法的決着に持ち込んで県に屈服を迫る罫を仕掛けたつもりになっていた。しかしそのシナリオは、今回の国地方係争処理委員会の想定外の「決定」によって脆くも崩れたように見える。

今後7/14の国と県の和解を受けた「作業部会」の協議を経て7/21まで国の出方に注目する必要がある。

註①国地方委の「判断回避」の決定が、法的には沖縄県の「敗訴」であり、判断回避に名を借りた実質的「却下」であるという阿波連正一静大法科大学院教授の見解もある（6/27琉球新報）。氏によれば地方自治法に定める30日以内（7/21まで）に県が是正指示の取消訴訟の「権利」を行使しないと、国による県の不作為の違法確認訴訟、代執行訴訟は形式審理となりそれぞれ2ヶ月前後で決着がついてしまうと警告している。

6. 19沖縄県民大会と結ぶ神奈川行動に300人

6/19 午後2時から、横浜市大通公園にて「沖縄県民大会と結ぶ神奈川行動」が展開された。同時刻に那覇市内で開催された「元海兵隊員による残虐な蛮行を糾弾！被害者を追悼し、沖縄から海兵隊の撤退を求める県民大会」に呼応して、基地県・神奈川からも声をあげようと神奈川平和運動センター・基地撤去をめざす県央共闘会議・かながわアクション・戦争をさせないかながわの会・島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会の5団体が呼びかけ、約300人が参加した。

冒頭、元海兵隊員に殺害された女性被害者への黙祷。5団体を代表して高梨晃嘉さん（元横浜市議）が、「女性の直面した恐怖、娘をなくしたご両親の慟哭に我が事として向き合っ、日米両政府に抗議と責任追及の声を、この神奈川からしっかりあげていこう」と主催者挨拶。続くリレートークで、厚木基地爆音訴訟にも関わる**福田護弁護士（神奈川平和運動センター代表）**は「地位協定の抜本改定が沖縄から提起されている。米兵の事件・事故だけでなく、地元を無視して基地建設を強行するのも地位協定に関係している。基地を抱える神奈川からも地位協定抜本改定の声をあげよう」と呼びかけた。45年前に嘉手納基地の近くに住んでいたという**鶴見沖縄県人会元幹事長の仲宗根保さん**は「今回と同じような事件は何回も起こっていた。その度に『綱紀粛正』『再発防止』を耳が痛くなるほど政府から聞かされた。海兵隊は人を殺す訓練を毎日やっている。海兵隊の基地が沖縄に集中している限り今回のような事件は防ぎようがない」と指摘。「海兵隊撤退が初めて県議会決議に盛り込まれた。辺野古の新たな基地建設は絶対に認められない」と訴えた。「**9条にノーベル平和賞を！**」実行委員会共同代表の**鷹巢直美さん**は「自分の子どものことを考えても、絶対に今回のような米軍関係者の事件は許せない」と強調。参加者にコールを呼びかけ、「戦争なんてやめてチョーダイ」「辺野古の埋め立てやめてチョーダイ」「軍事基地なんてやめてチョーダイ」「憲法違反はやめてチョーダイ」「平和の願いを叶えてチョーダイ」と熱唱した。

ここで司会から「沖縄県民大会は会場が人で溢



れて、5万人以上にはなると連絡がありました！」と報告されると、参加者から大きな拍手。

「沖縄から帰ってきたばかり」と言う**福島瑞穂・参議院議員**は、「どこまで性暴力が、人殺しが続くのか。日米合同委員会で地位協定の見直しが議題になったことはない」と日米両政府を厳しく批判。

「基地と女性の人権は両立しない。普天間返還、辺野古の新基地建設は許してはならない。神奈川も、基地をなくし、基地の被害をなくしていく闘いを進めよう」と訴えた。「**すべての基地にNOを！**」**ファイト神奈川**の**木元茂夫さん**は、米軍主催の訓練に自衛隊が参加して共同訓練を積み重ねている実態を指摘し「安保関連法が施行された中で、自衛隊の様々な動きに監視が必要だ。自衛隊を戦場に送らせない取り組みを」と呼びかけた。

司会から沖縄県民大会決議が紹介され、オール沖縄会議から全国に宛てたメッセージが読み上げられた。集会の最後に県私鉄労組の仲間の音頭で「米兵・軍属による性暴力糾弾」「地位協定を抜本改正しろ」「海兵隊は全面撤退しろ」とシュプレヒコール、約3キロのデモ行進に出発。アピールしながら休日賑わう横浜港周辺を巡った。



沖縄県民大会は自民党・公明党が政治的思惑で参加を見合わせる中で**65000人**が大結集。「海兵隊は撤退を」「怒りは限界を超えた」のプラカードを掲げた。東京・国会前行動は**10000人**が参加、沖縄県民大会での翁長知事の発言が、スピーカーを通して国会周辺に流れた。



追悼の空間を切り裂く〈戦場〉～訪沖レポート(6/22-25)

65000人が結集した県民大会の余韻の残る「慰霊の日」(6/23)前後の沖縄を訪問した。辺野古ゲート前行動に参加し、高江の座込み現場や女性の遺体発見現場を巡った。「慰霊の日」には魂魄の塔の国際反戦集会にも参加した。各所で追悼の空間を切り裂く〈戦場〉の現実遭遇した。

6月22日(水)

昼前に那覇空港到着。2時過ぎに辺野古到着。浜のテントでカンパを渡す。ゲート前テントには約50人。午前中は伊波洋一さんがゲート前に来たようだ。夜は宜野座の知人宅に宿泊。キャンプハンセンとシュワブを結ぶ飛行訓練ルートの直下で、夜の8時から10時ころまで、10分間隔で米軍ヘリが猛スピードで上空を通過して爆音を撒き散らす。これで辺野古に新基地ができれば大変なことになると実感する。

6月23日(木)

きょうは沖縄戦の死者を悼む「慰霊の日」。摩文仁の「魂魄の塔」脇の空間で、毎年、沖縄平和市民連絡会が中心になって国際反戦集会を開いている。今年は司会が玉城愛さんとシールズ琉球のコンビで6.19県民大会の余韻の残る雰囲気。海勢頭豊さんの演奏、金城実さんの下駄踊り、高江のフラダンスも飛び出し、怒りと鎮魂、笑顔のあふれた集いが続いた。参議院議員の糸数慶子さんと元宜野湾市長・伊波洋一さんも挨拶。糸数さんは、平和祈念公園の追悼式典で安倍の発言の後で翁長知事の毅然とした発言が大きな拍手で迎えられたことを報告。知事だけではない。県遺族連合会の宮城篤正会長も「新たな基地建設には遺族として



断固反対する」と述べ「われわれ遺族の戦争と基地に対する強い思いを心にとめ置いて国政にあたること」を安倍首相に求めた。

6月24日(金)

きょうも真夏の青空。朝、恩納村の女性遺体発見現場に行き、献花して祈りを捧げた。献花台があり、たくさんの花が供えられていた。国道58号から県道104号に500mほど入りちょっと脇にそ



れた雑木林の中の道で、周りはキャンプハンセンの海兵隊基地。追悼の場所に静寂はなく、今日も「タンタンタン」と実弾演習の音が鳴り響いていた。

その後高江の座り込み現場へ。高

江N1ゲートの座り込みテントでカンパを渡し、住民の会の方から現状を聞く。ここ数日間オスプレイの激しい訓練が続いている。午後10時以降の離発着訓練で地元の小中学校児童が睡眠不足になり、学校を欠席する事態も。防衛局は7月からの工事再開を狙ってゲート前のバリケード撤去を求めて何回か来ているが、県道のために防衛局が直接手を出せない。建設予定地につながるすべての入口を車で封鎖し監視中。7/1に北部訓練場正面ゲート前で大集会が予定されている。



N1を離れて共同売店前で食事をしていると、重低音が響き始め、MV22オスプレイが上空に現れ、高江の集落を旋回。ここ数日間、もっと低空で集落上空を夜間も飛び回っているようだ。

辺野古のゲート前に戻ると、三重の高校生が10人ほどいて、生徒会長の男子生徒がなかなかいい発言。「ここに来るまで何も知らなかったけれども、これから闘い続けたい」と。

6月25日(土)

最終日、午前中のゲート前座込みに参加。9時過ぎから新ゲート前で集会をしていると、米軍車が来るたびに軍警備員が「道を開けろ」と出てくる。車両が通過できる幅は確保してあるが、米軍のメンツなのか、もっと開けると執拗に迫って警告してくる。「車は通れるではないか。集会を妨害する気か」と抗議し粘っていると、県警機動隊20人ほどがゲート内のバスから降りてきて、座込みの半分ほどを排除し米軍車両を通過させる。機動隊が引き下がるとまた座込みをして集会を貫徹。10時すぎると中部、南部の島ぐるみ会議のバスや車が続々と到着し、テントで集会が続いた。午前中の行動終了後に、辺野古を後にした。

